



重点アクセサリ研究  
音のグレードアップはここから始まる

# 新世代の “電源ボックス& タップ大全”

21モデル一斉比較

Text by 岡田洋世 *Final Sounds*

&クオリティアップと使いこなし5つの有効プラン

Text by 編集部 地野 美

オーディオシステムの音質を大きく左右する、電源。その質を整え、良質な供給経路の構築に欠かせないのが、「電源タップ」と「電源ボックス」だ。機器を動作させる重要な部分だけに、メーカーによる改良や新しい技術開発もきめ細かく注がれているジャンルといえる。価格レンジが広く、素材や構成も多様で、独自の音質対策を備えるなどバリエーションに富む。そこで今回、進化したい「電源タップ」と「電源ボックス」の現状と動向を定点観測するべく一斉試験を実施。さらに、より優れた音の成果を引き出すための使いこなしとして、ボックスとタップ周りのクオリティアップの方法も探った。



電源ケーブル周りに効果的な支持アイテム、フルテックのプラグ/コネクターフォルダー「NCF Boosterシリーズ」。挿した端子の抜けや弛みを防止し、振動やノイズ、静電気を対策できる。左奥から右へ、「NCF Booster」(¥45,639・税込)、「NCF Booster-Signal」(¥27,555・税込)、「NCF Booster-Signal-L」(¥20,592・税込)。手前左から「NCF Booster-Brace」(¥27,555・税込)、「NCF Booster-Brace-Single」(¥19,206・税込)。右の空きコンセント用音質向上グッズ、ACオプティマイザー「NCF Clear Line-US」(¥31,724・税込)はフィルターなしで効果を得る



壁コンセントに挿した電源ケーブルのプラグも、鬆んでることが多い。「NCF Boosterシリーズ」のオプション支柱などを増設することで、高さのある位置にも対応させることができる

#### ④ケーブル接続周りの強化策 弛みを防止しながら支持し ノイズや静電気へも対策

電源ボックスに挿した電源ケーブル周りにも、クオリティアップ対策の鍵がいろいろある。

なかでも一番のポイントは、ボックスの入り側に繋いだケーブルのIECコネクター周りだ。この端子部は以前よりも大幅に改善されているが、比較的弛み易い。その強化策は音質的な要素はもちろん、安全面からも有効となる。弛み易い＝振動に弱いと言え、しっかりと支えることを基本として、さらにノイズや静電気も対策できるアクセサリ、フルテックの「NCF Booster」シリーズが開発されている。

機器へと繋ぐ電源ケーブルのブラケ部にも、同じように適用すればこれもクオリティアップ可能だ。支えるだけでなく、「NCF Booster-Brace」のようにプラグを囲う形で配置させることで、ノイズや静電気には効果がある。

なお、電源ケーブルはなるべく信号ケーブル、特にフォノケーブルとは離して配置させた方が理想的。ケーブルインシュレーターなども活用して、立体配線をイメージすることもお薦めだ。

さらに遡って電源ボックスへと繋ぐ大元、壁コンセントに挿した電源ケーブルのプラグ部も弛んでいることが多い。事故防止と音質面で、定期的な確認をすることも対策をしておく効果は大きい。